2006年度
森村・川村ゼミ
グループ発表
2006.05.24

# 「軌跡（あしあと）」

発表者
小原、桑原、田中、豊島

# 「軌跡（あしあと）」

森村・川村ゼミ　グループ研究発表
2006年5月24日（水）
小原章史、桑原翔、田中茂裕、豊島典明

## ●はじめに

今我々はありとあらゆる建築物に当たり前のように取り囲まれながら生活している。家、学校、店、公園…。建築物なしでの生活はもはや考えられないだろう。そんな、建築物。空気の如く我々を取り巻くが故に、それが一体どのような存在なのかを考え辛い。建築物が集まって都市を形成する。都市というものは常にその時代の流行や社会の状況などを映し出していて、それを振り返ってみることは、言わば、人間社会が辿って来た「軌跡」をたどるようなもの。記号学者ロラン・バルドは自書の中で『都市が一つの言説であり、この言説が真の意味で一つの言語である』と述べている。都市とはすなわち建築物の集合体であり、我々の生きる場である。その都市が言説であるなら、一体そこで説かれていることとは何か。あるいは、我々は都市というものから何を見出すべきなのであろうか。身近にあり過ぎて、今まで注意を払っていなかった「都市からのメッセージ」に、我々は耳を傾けていきたい。

## ①モダンからポストモダンへ：変遷の概要

［モダニズム］

（特徴）

- 国際的様式　＝異国、異文化間で普遍性を持つ
- 機能主義　＝機能しないものは作らない
- 合理的、効率的　＝無駄なものを取り払った
- 大規模、都市全体

⇒●社会的（統一性重視）

空間　＝　社会的目的のための造物。社会的プロジェクトの構築に役立つもの。

↓

都市計画

［ポストモダニズム］

（特徴）

- 断片的　＝まとまりがない
- パリンプセスト　＝Palimpsest、多層構造
- コラージュ　＝Collage（仏）、張り合わせ
- 折衷主義　＝Eclecticism、建築諸様式のまとまりを求める
- 特殊化　＝民芸風な伝統、地域の歴史、特定のニーズ・好み・欲求

⇒●美学的（多様性重視）

空間　＝　美学的な意図や原理に従って形成される、独立的、自立的なもの。
社会的目標とは無関係

↓

都市デザイン

## ②モダニズム的都市の誕生とその概要

［第二次世界大戦の終結］
⇒政治・経済・社会の問題
（不況・失業・飢餓進行・無料食堂・劣悪なスラム・極貧）

よりよい未来を構築するための広域な機会の創出が必要
（完全雇用・適正な住宅供給・社会給付・福祉）→国際平和と繁栄

↓

都市構造の「再構築」、「再形成」、「再開発」の必要性
⇒大戦時における大量生産・計画の経験を、大規模な再構築、再編成計画に着手する動き

［a.イギリス的解決策（ヨーロッパ諸国）］
●E.ハワード　→計画的なニュータウン開発
●ル・コルビュジエ　→「再開発」のモデル

- 商業化された建設システム
- 空間的パターンや循環システムの合理化
- 郊外化の制限

→機会均等、社会福祉、経済成長の推進

［b.アメリカ的解決策］
●ロバート・モーゼス　→ニューヨーク全体の「再形成」
「パワー・ブローカー」
●フランク・ロイド・ライト　→ブロードエーカー・プロジェクト（1930 年代）

- 政府支援のインフラストラクチャーへの着手
- 商業化された建築システム
- 大量生産

→合理化された都市空間の再開発

## ③モダニズム批判

**a. クライアーのモダニズム批判**

【レオン・クライアー（英）】

- 建築家
- チャールズ皇太子の“キッチン・キャビネット”の一員
- 1987 年『建築デザインの概要』
  →モダニズムへの不満を訴える

cf.）「キッチン・キャビネット」
＝Kitchen Cabinet 私設顧問団
※チャールズ皇太子のキッチンキャビネットは建築と都市デザインの関する問題を取り扱っていた。

1.［モダニズムの中心的な問題点］
- モダニズム的都市計画が、単一機能的ゾーニングを通じて機能している点。
- 都市計画家たちは<u>人工の幹線道路を経由する人々の都市間の循環</u>に重点を置いた。

↓

時間・エネルギー・土地を浪費⇒″反エコロジカル″

cf.）「ゾーニング」
＝(Zoning)空間や地域をいくつかに区分けし、その一つ一つに特有の用途・機能を持たせること。

2.[“貧しさ”から“豊かさ”へ]

「象徴的な貧しさ」
・単一機能的ゾーニング（区分け）の実施という形で法制化
・機能主義的単一化
・単一用途への利用が縦横無尽に過度に集中している

単一性

ex.）摩天楼、ｸﾞﾗﾝﾄﾞｽｸﾚｰﾊﾟｰ、CBD、商店街、オフィスパーク、居住地郊外 etc

↓

「象徴的な豊かさ」
・都市機能全体⇒相互の共存が実現、歩ける距離にある（「グッド・シティ」）
・エコロジカル
・幅と高さにおける拡がりによる発展
・複合化による発展
・一つの都市内の複数都市

多様性

ex）ディズニーランド、ラスベガスの街並み etc

●伝統ある「古典的」な都市の価値の回復・再生の追求

アプローチ＝　・過去の都市構造の復活

・新しい用途の修復

・モダンの技術や素材によって可能となる新しい方法で、伝統的な見解を表現する新しい空間の創造

b. ジェイコブスのモダニズム批判（アメリカ大都市の生と死）

◆批判の対象

E・ハワード、ル・コルビュジェなどを代表とする1945年代以来に見られるモダニズム的都市光景に関わる人物や概念

・都市再構築の結果における矛盾を批判

・様々な階級に属する所得者のための住宅計画案の矛盾の断罪

ex）ボルチモアに見られる集合住宅街

→「都市は誰のためのモノか、都市デザイナーの態度はどこへ向いているのか」

「過程が極めて重要である」

「多様性への人間の“生来的な”親近感に逆らう傾向、息が詰まるほど似ている土地利用を生み出す傾向をもつ市場過程が現に存在する」

これによって建築家たちが結果的に多様性に反する者であることを明白化

渾沌や複雑性への畏怖

**◆ジェイコブスの思い描く理想の都市とは**

・地区は二つ以上の機能を果たすのが望ましいこと。（つまり単機能になるゾーニングはしない）

・道は狭く折れ曲がっていて一つ一つのブロックが短いこと。
（幅が広くまっすぐな道路はつくるべきでない）

・建てられた年代が違う建物が混じり合っていること。（古い建物を壊さないで残す）

・人口密度が十分に高い状態にすること。

## ④戦後都市再構築時におけるモダニズム建築

**◆介入主義的な官僚国家機構の影響の台頭と企業の絶大な力（1950年代）**

戦後期の都市の再構築がもたらした、大衆の間で見られたネオ・モダニズム的な様々な建造物

・シカゴトリビューンビル（モダニズム建築）

・ロックフェラーセンター（モダニズム建築）

**◆「モダニズム的解決策」の正否**

・当時利用可能であった技術と明らかな資源不足に起因するそのようなやり方を
完全な失敗とみなすのは公正さを欠くものである

・物資の社会的供給を向上させ福祉目標に貢献→資本主義的社会秩序の維持

→モダニズム的様式が支配的だったとは言い切れない

## ⑤ポストモダン

「ポストモダニズムは多様性の美学の表現方法を見出そうとしているように見えるが、重要なのはそれをどのように行われているか検討することである。そうすると外見上の長所だけでなく、短所も見えてくる。」（文献110項）

**◆ポストモダン建築における技術変化**　ジェンクス

（1）現代的なコミュニケーション（「従来の空間と時間の境界」の解体）

断片化の生産（→現代コミュニケーションが社会に内在する強力な差異化を生み出すこと）
分散化、離心化、分権化した都市形態実現が容易になる。

（2）新技術

大量生産と反復を組み合わせることなく柔軟な大量生産の多様化が可能になる。

そして戦後直後に存在した拘束からポストモダニストたちは解放される。

**◆嗜好の文化**

・身分、歴史、商業、快適性、民族の領域などに対する強い関心

・ラスベガスやレヴェットタウンの嗜好

※これらの関心、嗜好に対してすすんで応えるポストモダニズムの姿勢

↓

結果として市場志向に。

差異化された政治的影響力と市場の力を通じて自らの要求をあらわすことにより悪化

**◆象徴資本**

・所有者の嗜好と卓越性を確証する奢侈品のコレクション。

富裕者の消費するドル追及により、都市デザインの差異化が顕著になる。故に、嗜好や美的好みの領域が広がり、建築家は上述の象徴資本の生産＆消費を強調した。

| モダン的 | | ポストモダン的 |
|---|---|---|
| 嗜好の強制的民主化と平等主義。 | ⇔ 矛 盾 | 社会的卓越化（階級による拘束） |

結果、抑圧された要求が表出

より多様化した都市環境や建築様式のための市場を刺戟するための重要な役割。

※象徴資本が成立するためには気まぐれな様式(＝嗜好)が資本を支えなくてはならない。

象徴資本という観念＋象徴的豊かさ

＝装飾、美装、美飾が社会的卓越化に関するコード、シンボルとなる

**◆分裂病･･･2重のコード**

1. 日常化した伝統
2. 常時多様に変化する社会

## ⑥古典的な都市の価値の直接的な回帰

◆体験から集められた知識

旅行、情報メディアなどを通して我々の知識は増えていく
⇒それらを混ぜ合わせる事による「刺激」

◆過去の保存の衝動

過去の保存＝自己の保存

不安定な状態→アイデンティティやルーツを求める動きが盛んに

◆「真面目」な歴史的な言及へのアプローチ

ロッシのモニュメント：集合意思のサイン
神話を美学的に生み出す

建築を通しモニュメントの生成を行う

例）・学生用寄宿舎
　　・門司港ホテル（ロッシ「最期」の作品）

街に点在する歴史的建築物のかけらをまとめ上げる機能

※ロッシは他のポストモダニストと違い、歴史を単に「引用」するだけではなかった

## ⑦アメリカ都市におけるスペクタクル

**◆時代背景**

モダニズム的都市再開発が生み出したスラム的状況とそこから起こる反乱

・インナーシティ
　低家賃な地域に低所得者が集中し治安が悪化

・公民権運動

・反戦デモ　など

※これらを解決し、都市を結集するシンボルを探求

簡素なモダニズム的なダウンタウンとは異なる建築の必要性

［例1］

ボルチモア都市博覧会

都市の近隣とエスニシティの多様性の賞賛

同時に、エスニック・アイデンティティの促進

→結果として、エスニシティを売り物にした営利的なものに

［例2］

ウエスト・エドモントン・モール

すべての歴史上の出来事の再演

［例3］

チャールズ・ムーアの公共の広場

すべての歴史上の出来事の再演

※スペクタクル的都市空間のイメージは資本と人々をひきつけるための手段となる

**◆スペクタクル化する都市**

生産者よりも見物者の観点にゆだねられる

・阻害からの回復

・混沌の時代の繁栄

→ゆえに分裂症的な効果は意識的なもの

## ⑧ポストモダン状況とは

**◆ポピュリズムへの移行におけるジレンマとその結果**

・富裕者と貧者の要求の統一のための民主主義的・平等主義的計画システムの欠如

・マイノリティや貧しい人々の問題へ非解消事実

・結果的に偏った市場志向

・計画のメカニズムから市場のメカニズムへの移行の虚無的結果

**◆脱構築主義との関係**

・モダニズムを積極的に脱構築

→エリート的でアヴァンギャルドな建築実践の高尚な立場を回復

・統一感のなさ

→相反する解釈に左右されやすい

※脱構築主義は歴史の単なる「引用」（混沌）を批判している点は特筆される

**◆統制のきかない世界を映し出すポストモダニズム**

ポストモダン建築の混沌は、社会の混沌を反映したもの

→ゆえに、方向を失い、混乱すら招いている

## 考察

モダニズム的都市の持つ国際様式は、結果として「抑圧」を生み、都市を息苦しいものにしてしまった。その「抑圧」から解放されたポストモダンの都市は、まさに「折衷」状態となったのである。そしてそれは、当時急速に広がりつつある人々の多様性（嗜好、エスニシティなど）と、その複雑さを映し出しているのである。

では、今日の東京から我々は何を読み取ることができるのであろうか。近年顕著なのが都心における高層ビルおよびマンションの建設ラッシュである。その背景にあるのは、その利便性はもちろんのこと、そこに行く、または住む事への憧れやステータスが挙げられるだろう。メディアにより都心の高層マンションに住むセレブリティが紹介され、多くの人々が憧れを抱く。近年の不景気はその憧れを増幅させる要因になっているとも言えるだろう。建築は「象徴資本」としての価値を今も持ち続けていると言える。高層ビル群は、その卓越性を視覚的に象徴する上で今日においても最良の材料となるのである（新宿副都心の高層ビル群など）。しかし一方で古くからの町並みの保存の動きも少なからず起きている。東京の人々はそんな相反する嗜好の中で揺れ動き、それが伝統的町並みとビル群、あるいは日本的なものと西洋的なものの同居という状況を招いているのであろう。

上述の通り、東京を例にとってみるとロラン・バルドの『都市が一つの言説であり、この言説が真の意味で一つの言語である』という言葉は現実味を帯びてくる。都市は、そこに住む人々、エスニシティ、社会システムについて語りかけてくる存在といえる。故にそれは複雑なものになりやすい。都市を通して、今日の社会状況を検討する事は有意義である。

用語解説

◆脱構築主義

ポストモダン建築の一派。アンバランスで予測不可能な傾向。また、コントロールされた混沌とも評される。ポストモダン建築のもつ、折衷主義（過去の建築様式や装飾の引用）を強く批判し、純粋な新しい建築を生み出そうとする。

参考文献

デヴィッド・ハーヴェイ『ポストモダニティの条件』青木書店　1999

高田明典『知った気でいるあなたのためのポストモダン再入門』夏目書房　2005